

令和5年9月19日

取手市議会議長

金澤克仁 殿

福祉厚生常任委員会

委員長 関川 翔

委員会中間報告書

本委員会に付託の調査事件について、会議規則第45条の規定により、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 調査事件名 令和5年第1回意見交換会時要望・意見に関する当委員会所管事務
- 2 調査の経過 令和5年6月13日、7月31日、9月11日
- 3 意見 別紙のとおり

【福祉厚生常任委員会】令和5年第1回市民との意見交換会の要望・意見調査報告

項目	要望・意見	現状（回答）
1	<p>コロナも収まりつつあるので第5圏域の地域支え合いづくり推進協議会の設置・活動を確立してほしい。</p>	<p>第4・第5圏域については、当面は一つの協議体として、地域支え合いづくりを行っています。今後、第2層協議体の活動が充実化した際には、第4圏域並びに第5圏域に、それぞれ協議会を設置する方向性を確認しています。議会としても注視していきます。</p>
2	<p>かたらいの郷について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かたらいの郷」で盗難がある。カメラの管理がなされていない。 ・杖を持ち込んではいけないのはおかしい（他グリスポなど可能）改善してほしい。 ・17時閉館…16時半に出るように促される。17時まで使えるようにしてほしい。 ・ロッカーにカギをつけるなど検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・盗難があったというお声は、指定管理者のほうには届いていないようです。館内には複数のカメラが設置されており、手荷物に関しては、自己管理をお願いしたいと思います。しかし、入浴の際に靴の履き違い等は散見されるようなので、議会としては、今後、注意喚起の張り紙や番号札の導入などを要望したところ、検討されることになりました。 ・かたらいの郷においては、利用者が施設内で、つえや靴型の装具、車椅子などを使用することを制限はしておりません。ただし、脱衣場と大浴場については、つえを使用しながらの入浴は危険を伴うので制限しています。大浴場については、高齢者などのための手すりなどが備え付けられております。議会としましても了解したところです。 ・16時までにお風呂の受付を済ませて、16時半で入浴を終了し、17時の閉館に間に合うようにというような形で運用を行っていることを確認しましたが、きちり16時半でということではなく、臨機応変に対応できないかということも、議会としてお伝えしました。
3	<p>お風呂施設（市内3か所）のお風呂の時間を1か所でもずらしてほしい。理由は、今の時間では、働いている人は入れない。税金を払っている人が入れない。現場がやる気がない。</p>	<p>7月から9月の夏季においては、かたらいの郷の開館時間は、平時よりも2時間延長し、19時までとしております。利用状況を確認したところ、現在の利用者のうち、3か所とも、主な利用者は高齢者の方となっています。平日の一日の入浴利用者数は、およそ100名から130名で、そのうち、開館時間を延ばしているかたらいの郷については、17時から19時の利用者は、平均すると6名から10名程度ということです。議会としても推移を見ていきたいと思っております。</p>
4	<p>家族がグループホームに入っているが月額16万円と高額である。介護保険だけでは賅いきれない。補助金制度などを提案してもらいたい。</p> <p>※意見交換会の中では「施設に入れるという選択肢ではなく地域で共存して暮らしていける地域包括ケアシステムを構築するのが理想である。」と回答した。</p>	<p>議会として調査したところ、一部自治体（横浜市や名古屋市などの大都市）で、自治体が独自でグループホームの居住費を助成する事業を行っていることを確認しました。しかし、近隣自治体での実施は、現在のところ確認できず、また財政的な課題などもあり、現在のところ実施の予定はないようです。議会としては、介護保険事業として、課題が山積していることは十分理解しているため、今後も注視していきます。</p>

項目	要望・意見	現状（回答）
5	高齢者の福祉サービス（「コトづくり」を具現化してほしい。）	<p>市が行ったアンケート結果によると、高齢者の買物の実態は、御自身で買物に行かれるほか、同居、もしくは別居の御家族の支援を受けたり、民間が行っている宅配サービスを利用したり、また、介護保険の要介護認定を受けている方については、訪問介護の生活援助を利用し、ヘルパーが日常生活に必要な買物を行っているとのこと。現在、市においては、買物支援サービスや宅配支援サービスについて具体的な検討などはしていない状況ですが、様々な事案、事例などの調査研究は行っているとのこと。議会としても調査研究していきます。</p> <p>また、移動スーパーについては、令和4年2月から移動販売車を増台して、2台体制で運行することで、販売箇所を30か所増の市内55か所で実施し、利用者数も約1万3,000人から1万7,500人ほどとなり、約4,500人ほどの増加の実績を確認しました。</p> <p>今後さらなる高齢化が加速化していくと、買物困難エリアが広がることも想定できます。そういった買物困難地域をいかに抑えるか、また、市民が買物しやすい環境を維持し続けるために、買物支援も含め、引き続き注視していきます。</p>